



いみなね・ゆうこう／一九五三年沖繩生まれ。七五年創価大学法学部卒業。七五〜七七年イギリスに留学。八〇年、沖繩県庁に勤務。八九年琉球石油株式会社（現りゅうせき）に入社、二〇〇四年株式会社りゅうせきエネプロ代表取締役社長に就任。生産・業務管理の効率化を目指すTPM活動も導入し、業務改善を徹底。県内外からの見学者も多く経営手腕は注目されている。

揺るぎない信頼関係が 確かな成果につながる

（株）りゅうせきエネプロ
代表取締役 **稲嶺有晃** さん
創価大学法学部卒業

沖繩で生まれ育った稲嶺さんは、一九六八年、創価高校に入学した。沖繩が日本に復帰する前の、東京に行くにもパスポートが必要だった時代だ。「最初は言葉が思うように通じず苦労しましたが、数カ月で慣れました。それ以上にシヨックだったのは優秀な人が多いこと。必死に勉強しましたよ」

三年後、創価大学法学部に一期生として入学。沖繩出身の故・志村進教授が顧問を務める剣道部で汗を流した。剣道部の同期仲間には、現在三井住友銀行に勤める上森信範さんや税理士として活躍する佐藤年彦さんらがいる。さらに沖繩出身者と「沖繩平和研究会」を立ち上げ、大学祭での展示なども行った。沖繩が日本に返還されたのは大学の二年になったときの出来事だった。「あらゆる活動に全力投球する大学生活でした。戦争で悲



本社の前で

今年、創立四〇周年を迎える創価大学。経済界や法曹界、教育界、スポーツ・芸能界など幅広い分野で活躍する卒業生を多数輩出してきた。特長は活発な国際交流で、四五カ国・地域の一二三大学と交流協定を結び、グローバルな視野をもち地域に貢献する人材を輩出している。

惨な体験をした沖繩が幸せを取り戻すには、自分たちがリーダーとして頑張らなければ。この想いが原動力になりました。必ず沖繩に戻り、沖繩の役に立つ仕事をしたいと強く思っていました」

卒業後は念願通り沖繩に戻って県庁に就職。九年間勤務し、教育庁と商工労働部でも予算を担当した。その後、兄

が社長を務める県内大手の「りゅうせき」に入社し、新規事業担当として携帯電話やホテル事業など幅広い分野の事業に携わってきた。二〇〇四年には関連会社でプロパンガスの販売などを行う「りゅうせきエネプロ」の社長に就任。昨年からはりゅうせき特化型のデイサービス事業も始めた。新事業に取り組みきつかけ

は、社員の一人が脳梗塞で倒れたことになった。稲嶺さんは麻痺が残る社員にあった勤務形態を作り、完全復帰できるように支援し続けている。「効率や成果だけを強調しすぎると人間はダメになります。信頼し合える人間関係こそが成果を生みます。『この会社は自分を守ってくれる』と感じた各社員の成長が、結果として会社の成長につながるのです」

稲嶺さんの目には、今の沖繩の若者は自分たちの世代に比べて、大きな自信をもつようになつたと映っている。「沖繩は二〇三〇年まで、人口が増える地域です。長寿だし、出生率も高く、移住してくる人も多い。独自の立地条件を生かした新しい産業が必ず生まれると確信しています」

座右の銘は『自我作古（我より古を作す）』。先駆者として後進に道を開きたいという想いは、今もなお変わらない。



創価大学の創立者・池田大作先生は、世界の平和と人権を守るため、トインビー博士や周恩来総理、マンデラ大統領などとの対談、またハーバード大学をはじめ世界の大学や学術機関での講演を半世紀にわたって続けてきた。こうした活動は高く評価され、1975年のモスクワ大学をはじめ

北京大学、グラスゴー大学、ボローニャ大学などから名誉学術称号を授与されている。2010年11月21日にはマサチューセッツ大学ボストン校よりモトリー学長らが来日し、名誉人文博士号の授与式が行われた（写真）。これまで世界の大学・学術機関から贈られた名誉学術称号は300になった。